PRESS RELEASE

2026 年 9 月 24 日

ユナイテッド・イミュニティ株式会社

ユナイテッド・イミュニティ、22 億円の資金調達を実施

AMED 創薬ベンチャーエコシステム強化事業による約 28 億円の助成金[1]と合わせ、最大 50 億円規模の事業資金を活用し、次世代がん免疫療法の開発を加速

― UI-102 のグローバル臨床開発と in vivo CAR-マクロファージ療法の実用化を推進 ―

ユナイテッド・イミュニティ株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：岸田将人、以下「当社」）は、合計 22 億円の資金調達を実施したことをお知らせします。具体的には、第三者割当増資 18 億円および新株予約権付融資（社債を含む）4 億円を調達致しました。

また、当社が進める「難治性固形がんに対する in vivo CAR-マクロファージ療法の開発」が、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の創薬ベンチャーエコシステム強化事業（V-eco）[2]に採択されました。

今回調達した民間資金 22 億円と公的助成金として最大約 28 億円を組み合わせた最大約 50 億円規模の事業資金を活用し、リードプログラムと In vivo マクロファージ改変プログラムの研究および臨床開発を加速します。

さらにがん以外の領域を含む新たな研究開発プログラムの加速・拡充に向けて、今後も必要に応じて追加の資金調達を検討してまいります。

---

[1] 本事業の補助対象経費総額に対して AMED 補助率 2/3 を上限とした場合の試算。実際の交付額はステージゲート通過の可否等により変動しますので、現時点での総交付額を示すものではありません。

[2] V-eco 事業は、認定ベンチャーキャピタルによる出資を要件として、非臨床試験、第 1 相・第 2 相臨床試験等の段階にある創薬ベンチャーの実用化開発を支援する事業です。AMED は補助対象経費の 3 分の 2 を上限として補助金を交付し、認定 VC による民間資金と公的資金を組み合わせて大規模な創薬開発を支援します。

資金調達の背景

当社は、マクロファージや樹状細胞などのミエロイド細胞に薬剤を選択的に送達する独自のナノ粒子技術「Myeloid Targeting Platform™」を基盤として、がん、線維症、自己免疫疾患等を対象とした「生体内免疫療法（in vivo immunotherapy）」の研究開発を進めています。

リードプログラムである UI-102 は Myeloid Targeting Platform™を用いて低分子免疫刺激薬を腫瘍組織内のマクロファージに送達することで免疫抑制的な腫瘍微小環境を再構築し、抗腫瘍免疫を誘導することを目指す治療薬候補です。米国食品医薬品局（FDA）による IND クリアランスを経て、当社主導の進行がんを対象とした第 1 相臨床試験が米国で進んでおります。

さらに、腫瘍細胞を認識するキメラ抗原受容体（CAR）蛋白をコードする mRNA を腫瘍組織内のマクロファージへ Myeloid Targeting Platform™を用いて送達し、腫瘍組織内に抗腫瘍性の CAR-マクロファージを直接生成させる「in vivo CAR-マクロファージ療法」を次世代の重点プログラムとして推進しています。本療法は腫瘍内で最も豊富な免疫細胞であるマクロファージの多様な抗腫瘍機能に着目すると同時に、従来の CAR 細胞療法とは異なり、免疫細胞の採取や体外加工工程を必要としない新たな治療アプローチです。In vivo CAR-T 細胞療法で治療が難しい難治性固形癌の新しい治療法になることが期待されます。

また、Myeloid Targeting Platform™を活用した mRNA 送達技術については、がん領域に加えて線維症や自己免疫疾患を対象とした治療薬プログラムの研究開発も進めています。

「民間資金 × 公的支援」による研究開発資金の最大化

創薬、とりわけ新規モダリティのグローバル開発には、非臨床研究、製剤研究、治験薬製造、臨床試験など、幅広い領域において大規模かつ長期的な資金が必要となります。

当社は、増資・融資（社債を含む）・公的助成金を適切に組み合わせることで、株主価値に配慮しながら十分な開発資金の確保し、複数の研究開発プログラムを継続的に前進させる資本政策を推進しています。

今回の資金調達を通じて、UI-102 のグローバル開発を着実に進めるとともに、in vivo CAR-マクロファージ療法について非臨床段階から臨床段階への移行を加速します。この他、米国 Carisma Therapeutics の資産買収や Columbia 大学から肝線維症ターゲットである TIM-4 の独占的ライセンス権を取得するなど、知的財産の強化も同時に実施しています。

当社は今後、Myeloid Targeting Platform™を基盤として複数の in vivo 免疫療法パイプラインを推進し、in vivo immunotherapy 領域を世界的に牽引するバイオテクノロジー企業となることを目指します。

本資金調達における出資者・引受先（順不同）

・伊藤忠商事株式会社
・Ono Venture Investment, Inc.（小野薬品 CVC）
・リコーバイオメディカルスタートアップ投資事業有限責任組合（リコーCVC）
・Saisei Bioventures L.P.
・UTEC5 号投資事業有限責任組合（東京大学エッジキャピタルパートナーズ）
・みずほライフサイエンス第 1 号投資事業有限責任組合（みずほキャピタル）
・三菱 UFJ ライフサイエンス 2 号投資事業有限責任組合（三菱 UFJ キャピタル）
・みやこ京大イノベーション 3 号投資事業有限責任組合（みやこキャピタル）
・フジタ TT インパクト 1 号投資事業有限責任組合（フジタ・イノベーション・キャピタル、東海東京インベストメント）
・NVCC10 号投資事業有限責任組合（日本ベンチャーキャピタル）
・KUC 1 号投資事業有限責任組合（神戸大学キャピタル）
・あおぞら HYBRID3 号投資事業有限責任組合（あおぞら企業投資）
・株式会社常陽銀行

代表取締役社長 岸田将人 コメント

「今回の資金調達を通じて、当社がグローバルに事業展開する創薬企業としての基盤を築き、患者さんに新たな治療選択肢を届けるための研究開発体制を大幅に強化することができます。支援いただいた事業会社、投資家、金融機関、AMED をはじめとする関係者の皆様に深く感謝申し上げます。当社は、免疫学とナノ粒子技術の融合から生まれた日本発の革新的な in vivo immunotherapy を世界の患者さんへ届けることを目指してまいります。」

ユナイテッド・イミュニティ株式会社について

ユナイテッド・イミュニティ株式会社は、プルランナノ粒子（PNP）およびプルラン被覆脂質ナノ粒子（P-LNP）から成る「Myeloid Targeting Platform™」を基盤として、マクロファージや樹状細胞な

どのミエロイド細胞を標的とする革新的医薬品を開発するバイオテクノロジー企業です。がんを中心に、自己免疫疾患や線維症などの領域において、免疫細胞への選択的な薬剤・核酸送達を活用した新たな治療法の創出を目指しています。

会社概要

会社名	ユナイテッド・イミュニティ株式会社（United Immunity Co., Ltd.）
代表者	代表取締役社長　岸田 将人
所在地	東京都中央区日本橋室町一丁目 12 番 3 号
事業内容	がん免疫療法を中心とする医薬品の研究開発、製造、販売
ウェブサイト	https://unitedimmunity.co.jp/

本件に関するお問い合わせ

ユナイテッド・イミュニティ株式会社

広報・お問い合わせ窓口：【担当部署／担当者名】

E-mail：info@unitedimmunity.co.jp